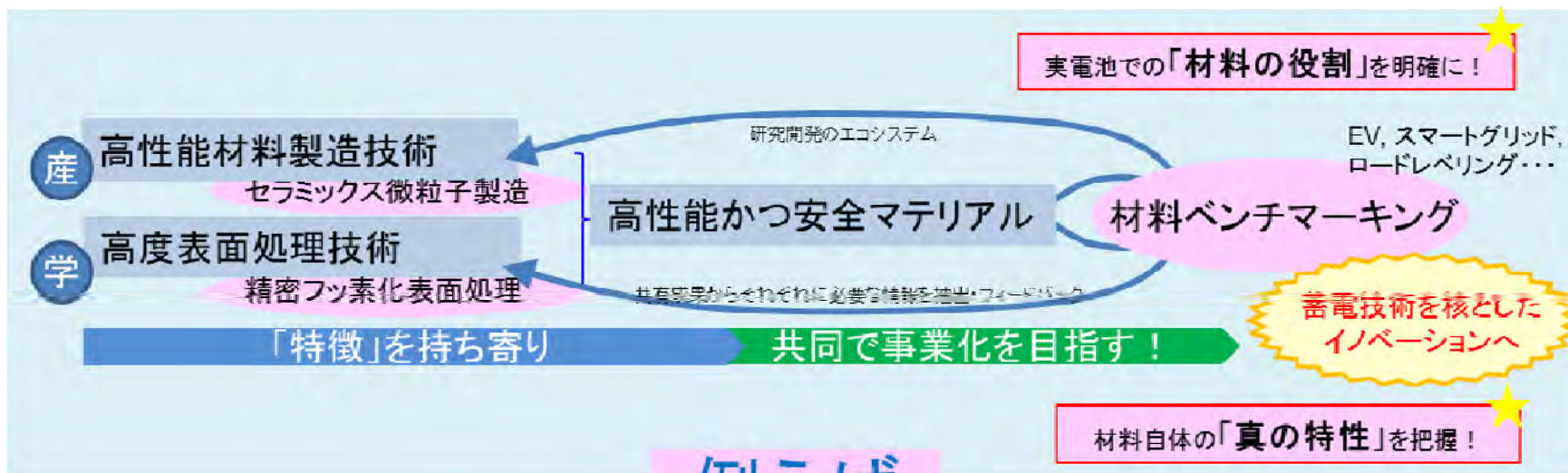
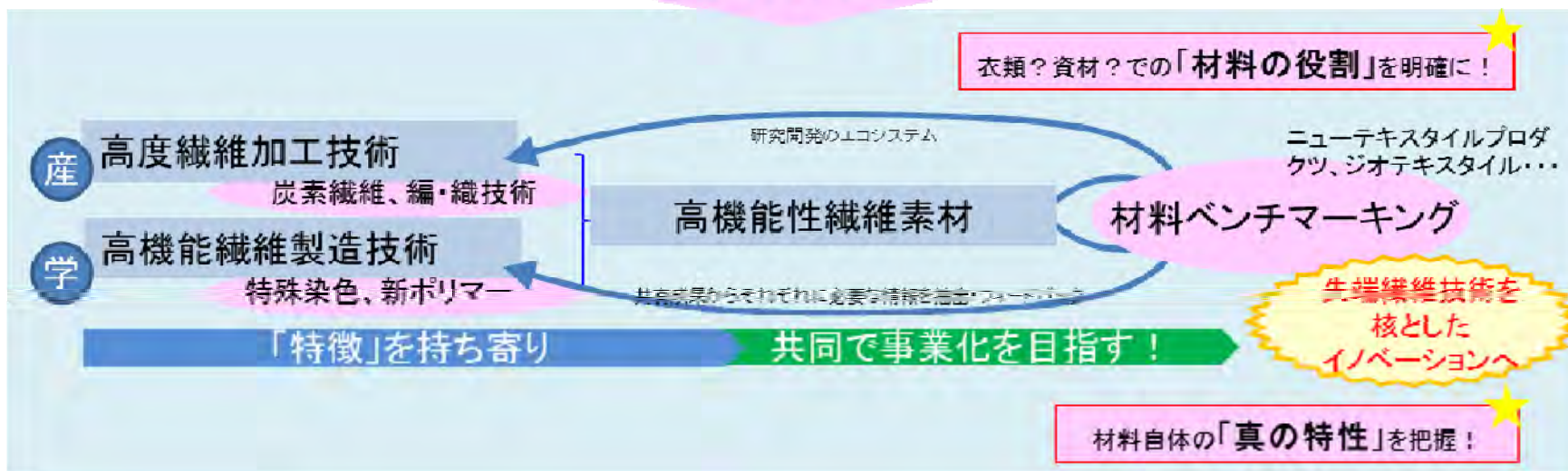


マテリアルベンチマークを要とした地域の研究拠点づくり

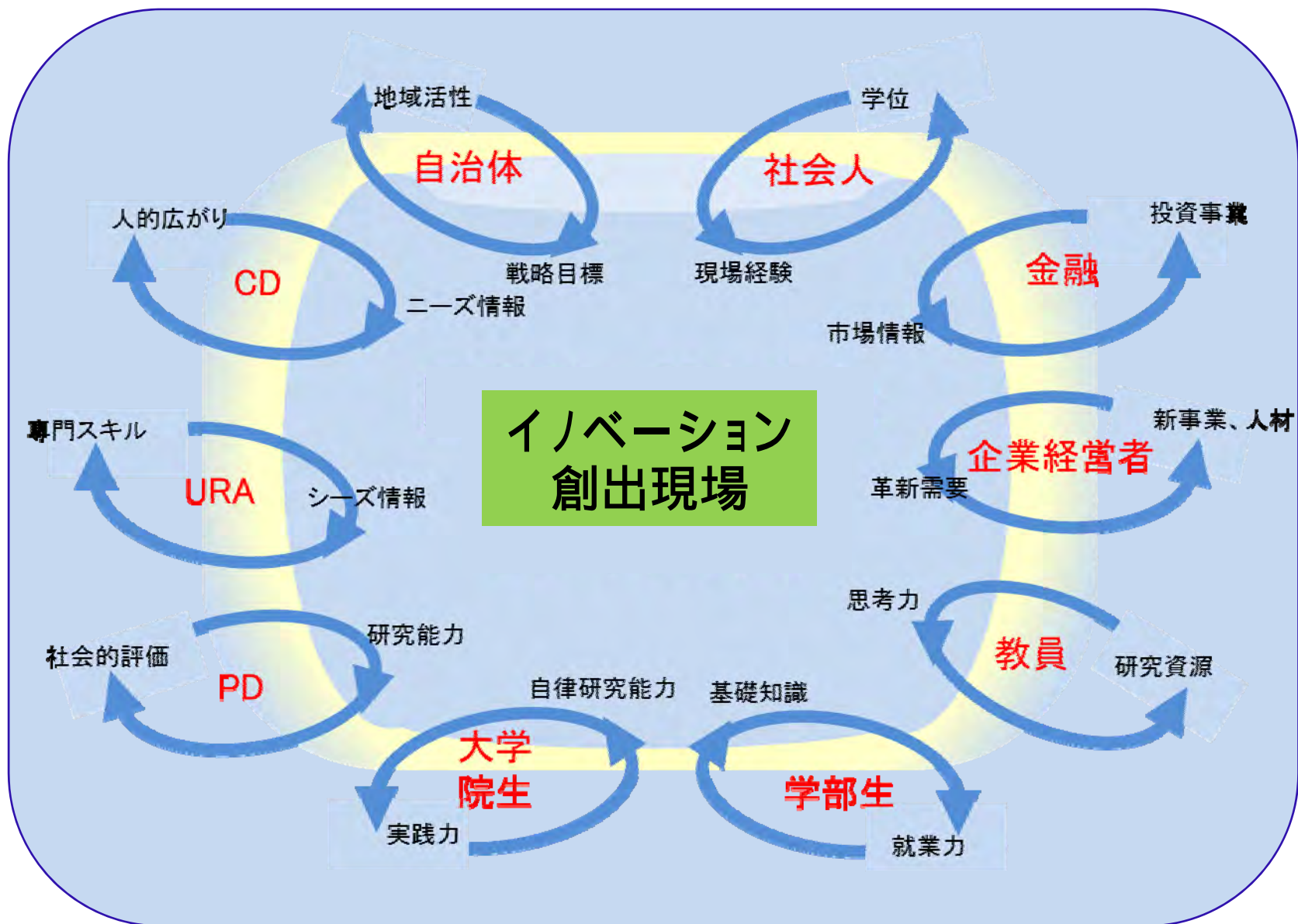
地域産学官連携によるエコシステムの概念の追究



例えば

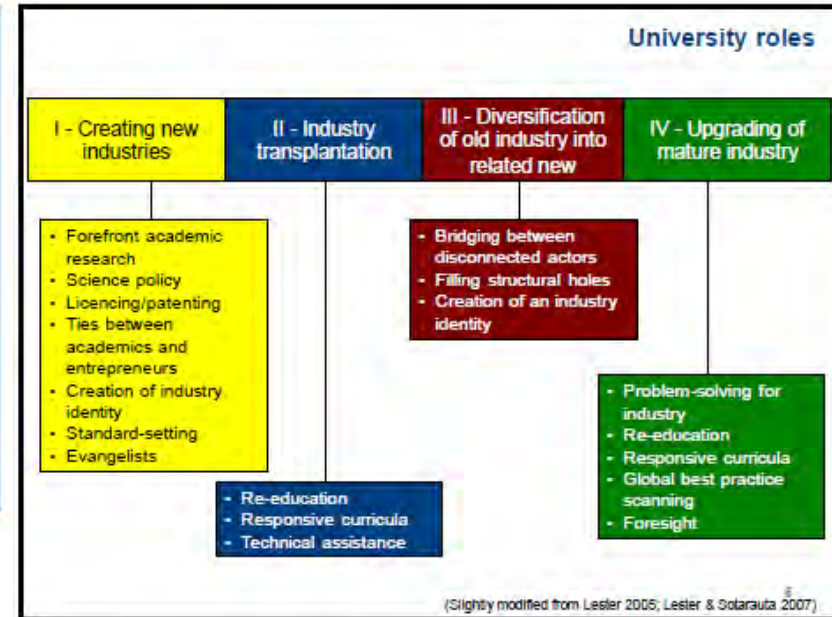


イノベーション・エコシステム実現という目標



「大学の地域貢献に関する国際シンポジウム」2013.11.15より引用

The Role of Universities in Local and Regional Development
Differing Roles Call for Customised Assessment Framework
Markku Sotarauta



大学は地域のために、地域で何をしているのかをまず理解することが非常に重要です。大学には違った役割があり、カスタマイズされたイノベーション戦略を理解する必要があります。必要なのは、地域レベルで共有された戦略的意識です。継続的なディスカッションが必要です。計画ではありません。継続的な協力と討議が必要です。また、企業や公共団体から新しい能力を求められています。

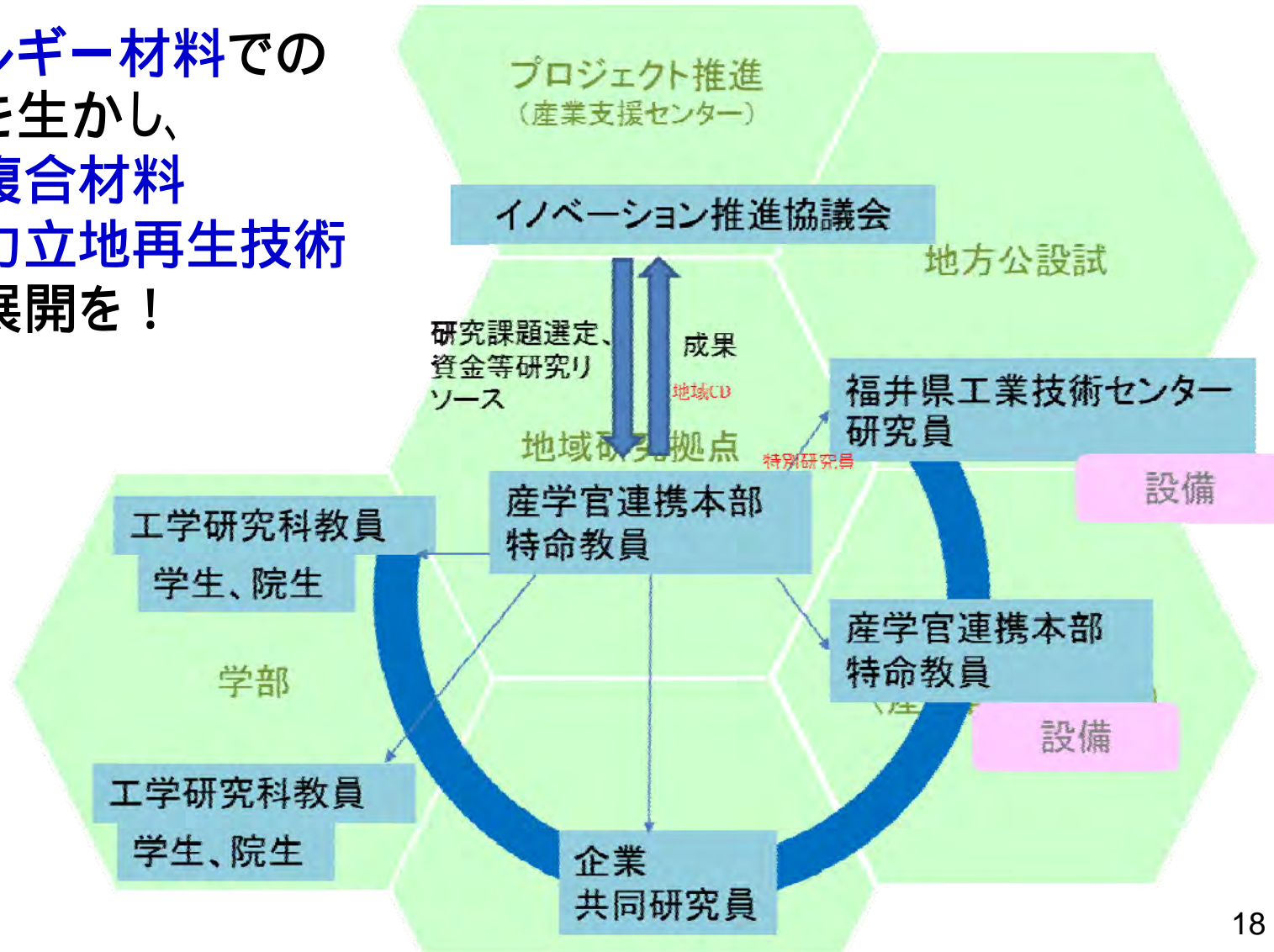
注：(2013年11月15日に東京で行われた「大学の地域貢献に関する国際シンポジウム」の内容を講演者の了承のもと委託先である株式会社リベルタス・コンサルティングにおいてとりまとめたもの)

この講演録の内容は、講演の記録として講演者の見解を掲載しており、NISTEPの公式の見解を示すものでないことに留意されたい。 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 第3調査研究グループ 17

産学官金民連携の「場」、自由に泳ぎ回るしくみ

オープンイノベーション推進協議会

エネルギー材料での
経験を生かし、
繊維複合材料
原子力立地再生技術
への展開を！



県が炭素繊維総合窓口 来月2日開設

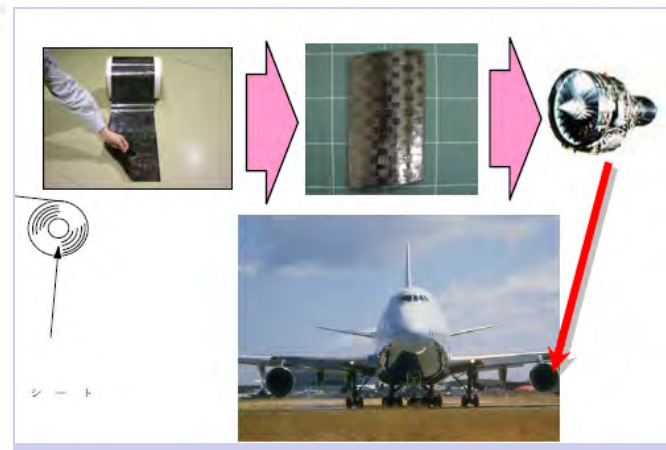
県内企業と技術開発加速 国内外販路開拓へ

西川一誠知事は二十二日、福井市川合鷺塚町の県工業技術センターに、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）関連の総合窓口「ふくいCFRP研究開発・技術経営センター」を開設すると発表した。県内企業と炭素繊維関連の技術開発を加速させ、国内外の販路開拓を進めるのが狙い。開設日は二月二日。

県地域産業・技術振興課によると、CFRPセンターには、ともに炭素繊維の専門家で、福井大が昨年十月に招聘（しょうへい）した山根正睦（まさちか）特命准教授と東京大の高橋淳教授を客員研究員に招く。人脈を生かし大手企業と共同研究を進める意図もある。県工業技術センターの職員数は変わらず、CFRPの窓口を明確に掲げることで県内外の企業からの相談や連絡を受けやすくする。



県内企業の炭素繊維材料と県の特許技術が航空機に採用され、笑顔で握手する関係者＝県庁で



Outline

・現状の把握

福井の地域事情、産学官連携事情ご紹介
産学官連携活動を取り巻く状況について
何を狙っているのか
福井大学の産学官連携活動の特徴を凝縮してご紹介
数値で見る現状

・「知」の社会提供のために

ILF、地域匠人材
教員の意識
CD・URAの活動
技術を大学へ預かってはどうか？

・プロジェクトを組んで

大プロとのかかわり
ベンチマークという役割
実践教育の題材、地域イノベ人材、支援人材
ローカルなのかグローバルなのか？

➡ 持続的な「知」の創出のしくみづくり

コンサルティングを入口に
競争的資金獲得のサポート
地域に必要とされる大学として
歩みを止めない決意